運転事故リスクを「見える化」
独自の安全教育で事故防止

ドライブレコーダーで記録した運転データを解析し、ドライバーへの安全教育サービスを提供するノーティス。ドライバーに潜在的な事故リスクへの「気づき」を促すことで、より実践的な安全教育につなげているのが特徴だ。

顧客は、運送会社や廃棄物収集運搬会社、危険物運搬配送会社のほか、生活空間で車両を運転する生活協同組合など幅広い。実際の運転データ解析を基にした安全教育は、事故防止に大きな効果をもたらしている。

住　所｜〒570-0012　大阪府守口市大久保町1-40-4
ＴＥＬ｜06-6916-8520　　**ＦＡＸ**｜06-6916-8521
創　業｜平成27年8月　　**設　立**｜平成27年8月
資本金｜50万円　　**従業員**｜2名
Ｈ　Ｐ｜https://www.notice-myself.com/

■主な事業内容
リスク分析型ドライブレコーダー関連製品の企画・開発・販売、
車両運転時の交通事故リスク調査、安全運転学習セミナーの開催

■主な取引先（納品先）
物流企業、廃棄物収集運搬企業、石油輸送企業、生活協同組合など

リスク分析型ドライブレコーダー

極み

データで運転を客観的に評価 自覚を促す主体的な学びに

同社の強みは、映像解析による事故リスク分析のノウハウと、個別ドライバーへのフィードバックという独自性のある教育サービスの提供。自身の運転映像で、自覚のなかった不安全行動に気づいてもらい、安全行動を主体的に学ぶことを重視している。

取り組み

就労支援施設との業務連携で障がい者の就労にも貢献

サービス提供に必要な運転データの解析は、人手と時間を要する。同社では、解析業務の一部を就労支援施設に依頼することで、障がい者に新たな業態の就労支援機会を提供。依頼時には、就労支援施設でのレクチャーなどを社長自身が担当している。

今後の展開

AI活用で迅速にデータ解析し蓄積データをさらなる活用へ

近年では、大阪府のイノベーション支援プロジェクトで、AIを活用した運転データ解析システムを開発。2024年末にβ版の修正が終わり、2025年からは自社で実務に用いる予定だ。蓄積した解析データは、自動運転の精度向上などへの活用が期待されている。

(C)MAPPLE, Inc.

株式会社ノーティス

WEBサイト

代表取締役社長
工藤 暢啓さん

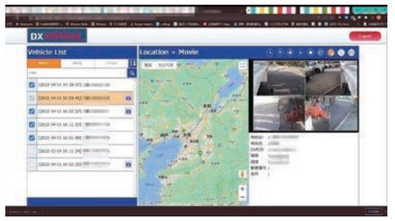
車両事故ゼロを目指して考案。「安全を自らつくる」社会に向けて

どうすれば、車両の運転事故をゼロにできるのか。悩み抜いた末に考案したのが、ドライバーが自身の運転を客観的に振り返って事故リスクに気づく、安全運転学習サービスの提供でした。

ルールを守れていなければ自覚してもらい、一方でルールを守っていれば自信を持って運転席に戻ってもらう。ドライバーが誇りを持って安全運転を心掛けるようにすることが、私たちの仕事です。

目指すのは、自転車運転者や歩行者も含め道路利用者それぞれが「安全を自らつくる」社会。その実現に向け、蓄積データを活用していきたいと思います。

運転状況レポート（アプリ）



DX Patrol（LIVE中継アプリ）

日報管理システム（アプリ）

推しポイント

福利厚生・働く魅力 職場環境

社外の協力者と業務を分担し、社内負担を軽減

教育サービス提供に必要な業務は多いが、社長と総務担当社員の2名のみで運営し、ドライバーへの個別教育は社長自身が出向いて実施。その他の業務については、社外の協力会社に外注することで社内負担を減らしている。

社長はドライブレコーダーの製造販売に携わった経験があり、その頃に知り合った仲間が、新たなドライブレコーダー関連設備の設計などにも協力してくれているという。「事故を減らすためにドライブレコーダーを販売するだけでなく、いかに運転データを活用して安全運転につなげるかが重要」という社長の理念に共感した協力者が、得意な領域を活かして教育サービスを下支えしている。